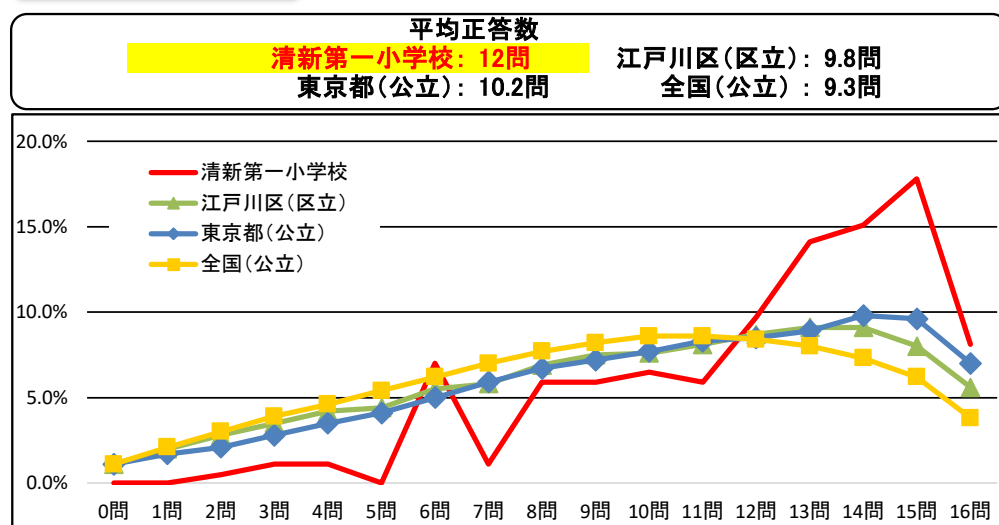


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】 清新第一小学校

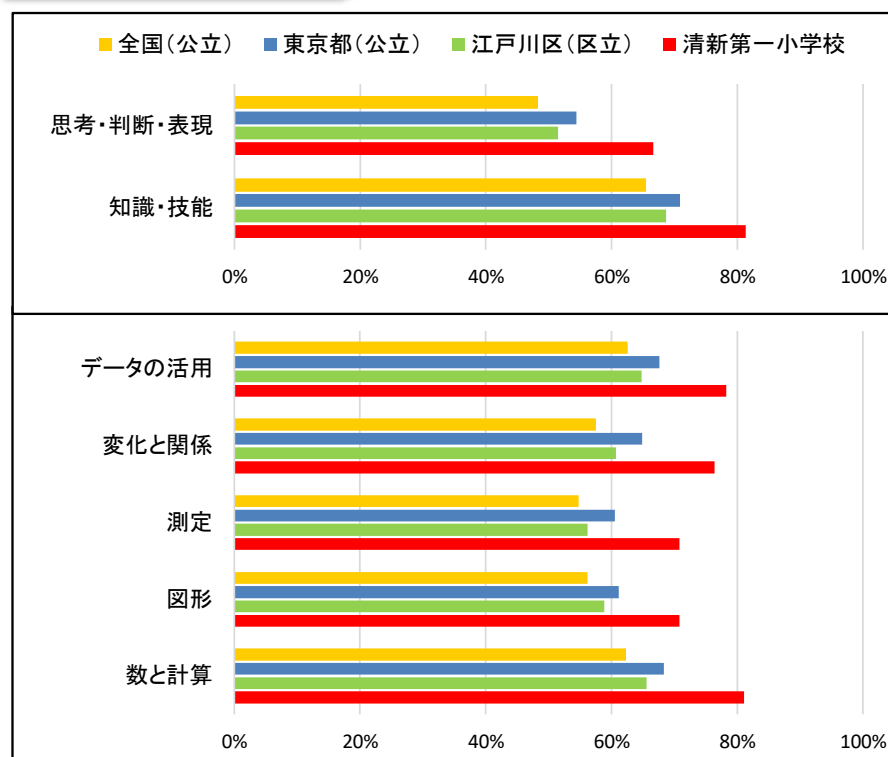
正答数分布



【平均正答率の差】

清新第一小学校	75%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	11.0

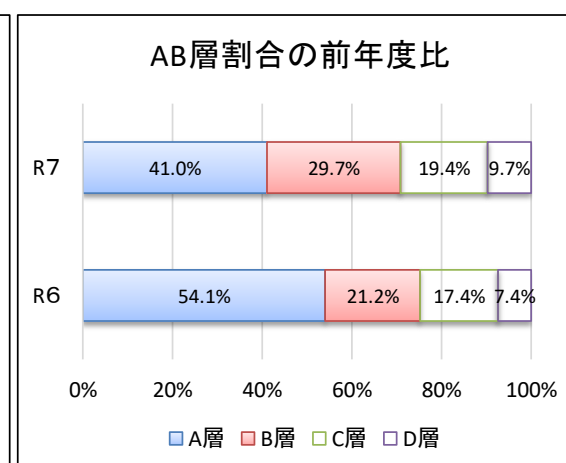
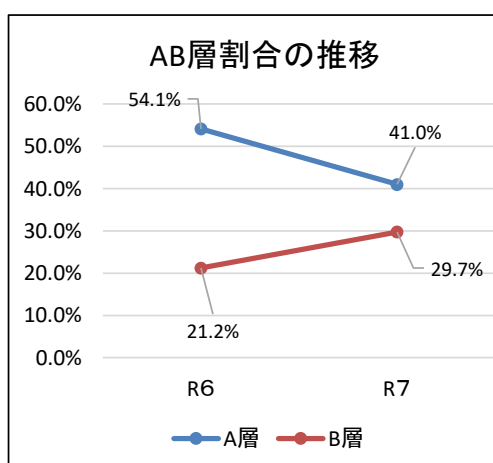
「領域別」の結果



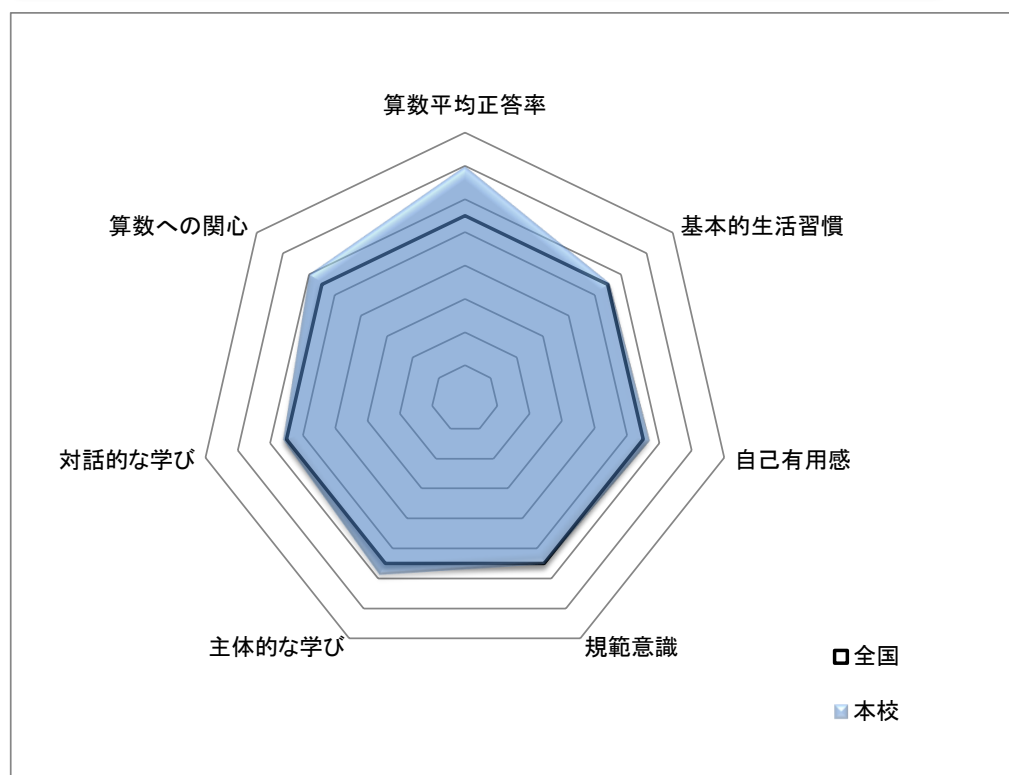
四分位における割合（都全体の四分位による）

算 数	上位 ← → 下位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
清新第一小学校	41.0%	29.7%	19.4%	9.7%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

算数の平均正答率は全国と比較して大幅に高く、算数学習への関心や主体的に学ぼうとする意欲は高い。一方、「今、自分が努力すべきことを決めて取り組む」などの対話的な学びや規範意識の項目については全国と大きな差は見られない。

《家庭・地域への働きかけ》

ホームページや学校便り等で、全国学力・学習状況調査の結果を公表する。調査結果の個票を返却する際には、一人一人の課題を共有し、各家庭での取り組みや励ましへの参考としていく。また、規範意識の向上や生活習慣定着のために、保護者会や家庭学習週間の取り組みを通して協力をお願いしていく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

〈AB層の割合〉

昨年度と比較して、今年度は、B層の割合は8.5ポイント上回っているが、A層の割合は13.1ポイント下回っている。

〈取組内容〉

AB層に関わらず、学習単元に関する前学年までの復習問題や基礎的な練習問題に取り組む時間を設ける。また、発展問題を含めた練習問題に取り組むだけでなく、課題を捉えて自分の言葉で解き方を説明したり、日常生活で生かせる場面を探したりする活動を取り入れることで、学習に対する理解を深め、問題に生かせる活用力を高めるようにする。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

日常の授業における指導について、教員間で情報共有を行う。また、区の学力調査の結果等を基に現状を把握するとともに、どのような指導を取り入れることが適切かを学年・学校全体で分析し、指導に取り入れていく。

・基礎学力の保障

授業においては、基礎的な練習問題に取り組む時間を設け、授業の学習内容が定着するようにしている。また、毎週木曜日に実施している算数学習にて、各学年・各クラスの児童の苦手な単元を中心にミライシードのドリルパークやプリントに取り組む時間を設け、定期的に学習を振り返ることができるようにしている。これらの取り組みを継続していく。

・学習習慣の確立

既習事項の復習できる範囲の計算ドリルを家庭学習として設定することで、学校と家庭双方で学習内容を定着させるとともに、家庭での学習習慣を定着させる。また、家庭学習週間の取り組みを通して、生活習慣を含めた日常生活を児童自身が客観的に振り返る機会を設け、改善につなげていくことができるようにしていく。

・AB層の育成

なぜその計算方法を使うべきなのかを友達に説明する場面を多く取り入れ、目的に合った処理の仕方を選択したり、その理由を説明したりする力を育てていく。また、各単元において、既習の学習が日常で生かせる場面を見つけたり、応用問題を解く時間を充実させたりするなど、図形の性質や面積の公式を覚えるだけでなく、問題に生かせる活用力を高めていく。